

2015年度 企業現場人材育成事業（インターン実習プログラム）

日韓産業技術協力財団 千吉良泰三

日韓国交正常化50周年を迎えた2015年、今後50年の日韓関係を担う若者の育成・交流が重要であることに鑑み、日韓産業技術協力財団は韓国の大学生を対象とした『企業現場人材育成事業』（インターン実習プログラム）を新規に立上げた。

本事業は、韓国の大学生を夏休みの期間を利用して、1ヶ月間、在韓日系企業で実習させ、企業人としての経験をさせることにより、日系企業の仕事の進め方やノウハウを学ぶと共に、日系企業の韓国に於けるCSR活動を理解し、知日派の学生を育てることを狙いとしました。また、優秀な韓国の大学生を日系企業に紹介していくことも目指した。

□企業募集

SJC（ソウルジャパンプラブ）、釜山日本人会、各地の企業連合会にご協力を頂き、4月から大学生を受入れて頂く企業の募集を開始した。初めての事業でもあり、受入れ企業を集めるのに予想以上に難航した。SJCの皆様のご助力を頂き、最終的には14社の在韓日系企業で20名の大学生が職場実習を受ける機会を得た。

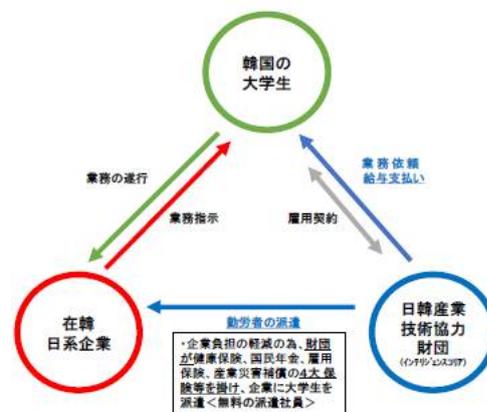
□実習生の募集

実習生は5月から韓国34の大学で募集を開始した。5月末までに約180名の大学生から応募があり、6月からは書類と面接による選抜を行い、また、学生の希望職種と企業側の受入れ職場とのマッチングを図っていった。

【事業の構成図】



【事業の仕組み】



□本事業の構成

本事業は「オリエンテーション」「企業実習」「フォローアップ研修・修了式」の3部構成とした。「実習前」の7月上旬に「オリエンテーション」を開催し、企業人としての心構えや業務遂行における注意事項等について説明し、雇用手続きを行った。「実習中」は全ての受入れ企業を訪問し、職場先輩から実習生の仕事の様子を伺い、実習生との「個別面談」を行い、フォローしていった。「実習後」の9月下旬には「フォローアップ研修会・修了式」を行い、実習で得た貴重な体験を全員で振り返り、共有化した。また、日系企業の人材育成、チームワーク、問題解決などの仕事の進め方についてもグループ討議と発表形式でレビューした。最後に、実習生一人一人に両財団からの修了証を手渡した。

【オリエンテーション】



企業人としての心構え



雇用手続き

【企業実習】



実習の様子

【企業実習】



受入れ企業の訪問



実習生と職場視察



実習生との個別面談

【フォローアップ研修・修了式】



グループ討議(体験の共有)



成果発表



修了証の授与

□企業側の印象

実習中に企業訪問してお会いした社長や責任者の方からは「良い学生を送って頂き、職場の良い刺激になった」等のコメントを頂いた。また、「採用試験を受けるようにすすめた」「入社をすすめた」との企業もあり、ほとんどの企業で好評であった。実習生の職場先輩からは「多忙でかまっていられない時は自ら仕事を拾いに来た」「前向きに明るく仕事をしていた」「意欲的に学ぼうとしていた」等のコメントを頂いた。

□学生の感想

韓国では実習途中で来なくなる学生も多いとのことで、勤務実績を毎日報告させるなど一人一人のフォローを行ったが、実習生全員が突発欠勤や途中放棄もなく、無事実習を終了した。実習中に面談した殆どの学生が「実習前に考えていた内容と異なり、人生にとって多くのことを学べた」「仕事の意味とその大切さや知った」「企業は利益至上主義と思っていたが、社会への役割などを学んだ」等の感想を生き生きと話していた。

実習後のフォローアップ研修や報告書でも「就職前にこのような実務経験を持って、これからの人生にとってかけがいのない経験になった」「仕事はできなかったが、それ以上に人生にとって貴重な体験をした」「人生観が変わった」等の感想が多く寄せられた。

